特別
へ5
1534
12止

たゝそ代々の和歌集に誹諧の歌
あまたは連歌に誹諧くさりあり
誹の理にゆきし時にあらん
ありふましつゝたちまて流れ
当代の数々に流行んと思ふに
乃よあり液なきさあとわさあれしと
誹もかしひ云んさりを乞して川な

利 1594 12 止

然ん仏法に因性をたゞし戒
律由をしつゝさうかゝらくさき
しらくきんもなかりふてる次
山乃もの月花をすてゝあそふ趣さ
ゝ此乃ありて奥に宗してゝ示さ
の梅桜を椿かうしゆまなしな
てうゝ落柏乃さゝしを堂塔しを

いふめりハ皆談林の流なりしされ
ハ其句乃あとき紙好むるハ家々
風のかはふ異なり次第に俳諧は
あま其儒俗ハこれ俗まさ純こ純
粋云ゝ粋云ゝ道ゝ四に似合く
此云ゝ梨しそよ深しかゝ人けま
古流宗鑑をもとゝせらるゝさき詞

虫孩あるを秀句なりとおもひて好み
ならひつたはりしかしめかりて文
章榜こゝろをも君子とし有餘ふ
是なるをも小人とすとこそみえ侍
れ是を以て發句ハ百句乃頭なれハ
是優頭乃巻頭より准らへてゆふ
くとさしのひらんこそ撰

るる人ハまさこ撰集なして作ハ有人
し百首ハ十首ならさりけるさ
の巻頭ハ中なちり時中よりさらふ
みえて一なり須京極黄門百首
巻頭乃歌安御入内の御屏風の
歌の中ゆあつめなされしふ絹あり
誹諧もこれをかなちかへをいつる

極楽の浄刹にも九品の差別あり
いはんや人の代くだれる何かにも難也
ありけるたぐひも侍りし後生
おそるべし爰に長頭丸といへるは
此道の中興にして名をもしるしとなふるを
かしこきみかどもしろしめし雲井のさし
出給ふ皐葉のきく明なるを

あはれを思ひ侍るところてふく
るひ人の見てゆるされはさき難
き石摩の太まはすかくしたる
のてにをはといふ習ひもなくたちまち筆
を執るる法蔵をかりんとおもひ
くはらこかよふふあるはなを
あふとすれと素人の舟にたとし

ときさしはさめる柳のすゑの
犬筑波行る誹諧集なとにさ
句は誹諧あまたよく人の言まゝうす
あれしたまへさんに今の川むらの
是誹諧の源は天之御神よ
出雲に住せまし或は時節のお
後にしらて定めおかりぬ誹諧乃

名字かさうつる事呂后の名をい
ことて雉と野鶏とは名謂なり
其又人を此彩骨の言葉多聞
料ありそて深かんも其の学
とくつるもいつれしくさあり
のこれ稀なし仏たちの花かる
しき句かる心川まてと名後とや

せんさく毎日月の遊覧を論せ
しみ此ころ今きく所を観ること
し雅ことさすくなきハいと堪しかる
る山く富士の雪此時志るぬかな
ちし文字假名落字等の謬の三
演乃事共よりの海静めして民
ゆたかなる今此御代千秋万歳ま
て此道をはんへそちん事をこひ
祢ふとのあまし

時に慶安辛卯初冬野夫良徳
志るし侍る

鹿山集 附録 廻文部

元日

よろこひたつやそつたひころよ
中さしぬと絹そ屠蘇酒めしさりみ
紀州若山小松原住 良和

もの代とさそさてさそし老よらしき
紀州若山住本町 時之

君のそと大臣志ゐて屠蘇よらさ
後沢

いさしまくと館そ屠蘇酒九万算
よつみとりて
尾州熱田住梅本 毎延

けさハよ三年ころハよめの酒　京 元順

くくむきみ神のミきと

きさのミの銚子出しく神の春　清成

今朝のめの米をは門のかさりけ　江戸 養卜

そそ出さ甚戸ゆまつそそ出さ　重友

流まおめひ長をなつれひかゆまつ　幸以

けさハそとのむこ残こむのこ拵ハ酒　玄碩

若菜

菜をもつて

かくたちろな七ツ菜たくる

長菜つミ春うらされハ水菜かな

野をゆんで菜摘そろなてんかな　治之

なつきつむ野ハなつな菜れむ月かな　言純

七種

流さひつむ野ふなハ初のむかきれ　京 元晴

かつみせんたきおもて見よな
我かれる流れよれる葉つミ川
見なれくのちるそもちれぬるひるな

勢州菖 不白歴

家跡

尾州津嶋 友彦

な川なミな野なえなになのなミなつな
な川なミな野なえなになのなミなつな
な川なミな野なえなになのなミなつな
な川なミな野なえなになのなミなつな
な川なミな野なえなになのなミなつな
な川なミな野なえなになのなミなつな
な川なミな野なえなになのなミなつな
な川なミな野なえなになのなミなつな
な川なミな野なえなになのなミなつな

増作

鈴木春葉

一氣

霞

吉野越とも芝よすゞか見ん霞　信田古多　政信

かすみこそみそくみすかゝこそ霧ぶ　大坂　勝緒

松の木は霞ハみすかはきのつま　葉久喜木一邑　方成

庵ハ霞の戸口みちくる家　伊勢久居住人　一寿

梅

松の木れむめやるやめむれきのつま

月とこそよ梅の香すゝかむ根の花

おもしへき盛ぞや母よ木の花れ

かぞれしは咲むめむ花らつめぶ

盛をむめとかんとかさかさ

むめ咲の梅の香りれ花盛　鈴木右京　一泉

天和清楽にゆふたき

此句非ニ廻(ス)文一

[illegible]まて声の一ひきや[illegible]梅

一糸

[illegible]

利せつまいをむ[illegible]ゆきゆまえて[illegible]

[illegible]

[illegible]をしろきあ[illegible]梅や津ろ雪

[illegible]

初雪

松乃木の雪やちやこの新ぬれま

新在家まて

京さして雪をやいきるの新在家

東京氷町 菅原[illegible]

重松

雪そきるてまいたて雪そきる

摂州松坂竹内[illegible]

一葉

清ろは山庭りや庭ゆのころゆき

大坂住桃山[illegible]

保[illegible]

ころのは山と雪ろやぬころゆき

絵本町[illegible]

信安

清ろは月ぬるやちすのこのころ雪

舟子の櫓にとまる雪と
まかせぬこをみなこのおるな雪　京ちう定町 常右
小野馬場して雪をきゝ
とみて
あさきさ場雪をけいさかちも　蘇弘
あるも咲雪もいさか草葉かな　大坂大野ち 勝経
なかれてさかる雪ちかれ　本山又左 幸関
まゆもをさいてらす雲と雪　鶴行
きゆるもやすらかん月かやこゝろ雪　江戸 林康
いつる雪来人やかるいきなかて　松井 久德

柳

長条色新た柳のりといふ所　播州住吉安立町住 勝正 来沢

椿

二階咲の椿と
名るいかわ新は椿乃二階をな
本いはしまち多いさう椿

本をたゝきつのひよ弥生の尻様

尾州名越一原　友秋

畑打

ゆく／＼と畑うてうらやく／＼と

奥州市之　友三

雛子

と網よ早し雛子さく庭数なる酒

江戸駿河町　秋改

我かたつとき雛子とやめき詩田酒

大坂林勘兵衛　久勝

ひきくやむ焼野とのけやむく雛子

越州京住　三秋

胡蝶

我日本蝶と蝶二つきぶ

葉人味蕃　清呂

手とてて蝶蝶ふまてそ手をとり

ひよまでてみぬとて立方蝶に蝶

姫路吉田好ヶ之条　利ご

春月

さつれさつかまみ見ての月の不

友蔵

嵯峨まで

嵯峨にきつくすみそめての月冬き七之よ

堺林寺中浜行内　廣次

蕨

迴

みぢかくも すゝやあやしれ蔵の子
京宗左衛門 幸以

花

花のさかりむかしをしのふかきね哉

花乃絵をうきさくらなきそかへ

三鶴語の声小鳥の花見さけ

あすも日ハ雲も吉野山さくらんか

永日をまろむきを老木の花

花ちのし花のちるハ志賀の一

里人ハあくさそ花の作

田の下花のちるは見の人

まだ木ちらむ雨ハ軒端の花

さの名ハ志しみ花の今

花の木のほけさき行の垣の縄

うくもて花みる時ハ袖まくら
青戸銭屋仁兵衛 志久

山桜花は梅のちるめん花のさき
芝[illegible] 宗利

和の郷よ花よる[illegible]
[illegible] 如見

見るさくら花忠度の只名は秋乃ん　良和

渓あれは孫乃岸にちるし　たまこ　治定

紛来の人を待ぬる庭に花
　さゞめかれも

よ続あひそまつ花は書そひなる　繁林

花見ん日暮けり小本渡り
人の坤しめひかれも

うしみなしね芽し渓の花之説　雲月

花とらまふ未るれい

木ねは名は之らしみて花の本　（因州鳥取住）英治

むかしの名ハさそて花志賀烏　（江戸住）林麻

生花へ床つんよ見るまむは京　（坪井めゝ幼）忠近

名ハきよ川よくつきはよ継木花　同

挿して池の花をみく

池の名ハちよ依めつし花の京　勝緒

位山乃花

名ハふるひするものかなかなひらく花　長尾吉和　信定

おかしく扇子をとめふれる人の
なかまて

松の名ハ梅とふるやなかうふ花ぞ書　門波　定利

まさにありのせんとん書のもる作　紀州和歌山　忠行

高雪に花供よ古を思ひ出　紀州　盛賢

長く名ハ殘る古のたれ供ノ子

三翔皆ハ答ひとさきさえんもつ人酒　備前岡山　俊重

皮の名ハそれ連くて花盛りと　越後新潟住　盛絲

そひとめよ花おりおれハよめと人　出雲　一然

花の木のえ京とあして垣の縄　大坂住　宗之房

陰字衆も乃実よ池荒ぞん花見　摂州　萬次

名古御川浪しく海子月とたれ　一無

梯

茶さんやいさ皆乃さい八重梯

らくさせい切りてそ腹をさ梯

氣ぬらくさ海のいりかをきかぬさ　加友

平はへや丸雪ぬちて八重さくら　紀州　由當

吹さかん風のハ風の梅さくら　勝之

海苔の花の末ぬ名は娘かんな　風沢

らくさ雨や春のきハ山さくら　未沢

おもひらくさそ梅ひらきちら　江戸住　村麻

梨花

咲さかんはさき木のこゝ川梅も遅

信濃にて

志なのなハ志て波なし花の梨　一糸

春草

咲かんつちの形の名ハ流ての草　重安

咲ころそさんさくもつての草　蕪石

流くさいそへやさてそ流ての草

庭紙つかんさん引流ての草　宗利

名を流さぬ羽ゞや毛毬やおもしろ　尾州　政重

咲日まて和まや出るとまもひ草　松眉

瀬家花のそのなハちて免ろ哉　英治
摂州富田唐沢之竹

咲あまり浪よけ足わけ早き菊草　蒠石

海棠

鳴んかきりきりてハかちり海棠かな　時之
紀州箕山松原之

桃花　付　酒

桃の木やうくさき行くよかきのとく　英昌
名古屋住吉田之

桃乃花や志らしきもしへ盃の　友興

今朝の桃よいよ香いよ桃の酒　時良

二神乃桃のむかしやまん丸桃の酒　備職

躑躅

志川浪しさいて果あ和志らす

近年四季咲のあされハ

志川浪さしもしそ志らし四季浪　昌長
東武山崎之

永日

あるきつみ春日れひるハたるきかし　之徳
摂州名古屋住好村

雑春

四ツ谷や春作るかハ薬師さま　野口九京　政元

端はしや春をちらつハ宿貌哉　友谷　貞好

柳塚へまゐりて

ろう〳〵そ人の春急そ柳塚　秋山水下　清盛

笑ふくさよ春へもれぬ海坂　繁林

去年ほすみてる門のちよ斜哉　加江　加友

あるき白ふ大こんこつさ野〳〵哉　東六茶十室　忠昌

なくき白ふ小猫と小孫ニ二ツ哉　江戸住　林麻

夏

更衣　付　帷子

衣替に礼なるて　良和

中いきと衣の夏きぬ御近哉

さらのまりぬきえへり花の衣哉　勝成

新樹

あつめれ木葉かゝしきかなのかな　春慶

若楓

定家のハむしくさむしよ若楓　重信

牡丹

咲ぬるハしらしやしらしまつの草　大坂住　一明

さくハ首をとる人十日廿日草　一葉

咲ぬるハこれゆりしれと廿日草　宗悦

咲かゝるまさんこのまんさ廿日草　正風

咲たるよ留しなきうしろハ草　英勝

さくハ後よなくハかよろい草　江戸住　正勝

郭公

夜の東川子規あるとなき月の下

枝戸さし須も書戸とまつもたつゝまさと　忠寿

郭公小夜鹿ありもかれハ

あつ郭公し戸ハかそふそ須ひ名残　政重

杜若

名ハ世の人これさ雅人のかなも
桧原 宅重

夏草花

ゆくさきも花のさかりの名ハもしらぬ草
豊後水木 貞明

蚊

蚊やらしやれつれ法ゆや仕立蚊や
堺白丸家 政花

蟬

目に世の木花のあかりけ夜新の蝉
丹波国住村八右 三徳

水草花

きのきのけいちまもハさく池の面
堺木吉右衛 宣勝

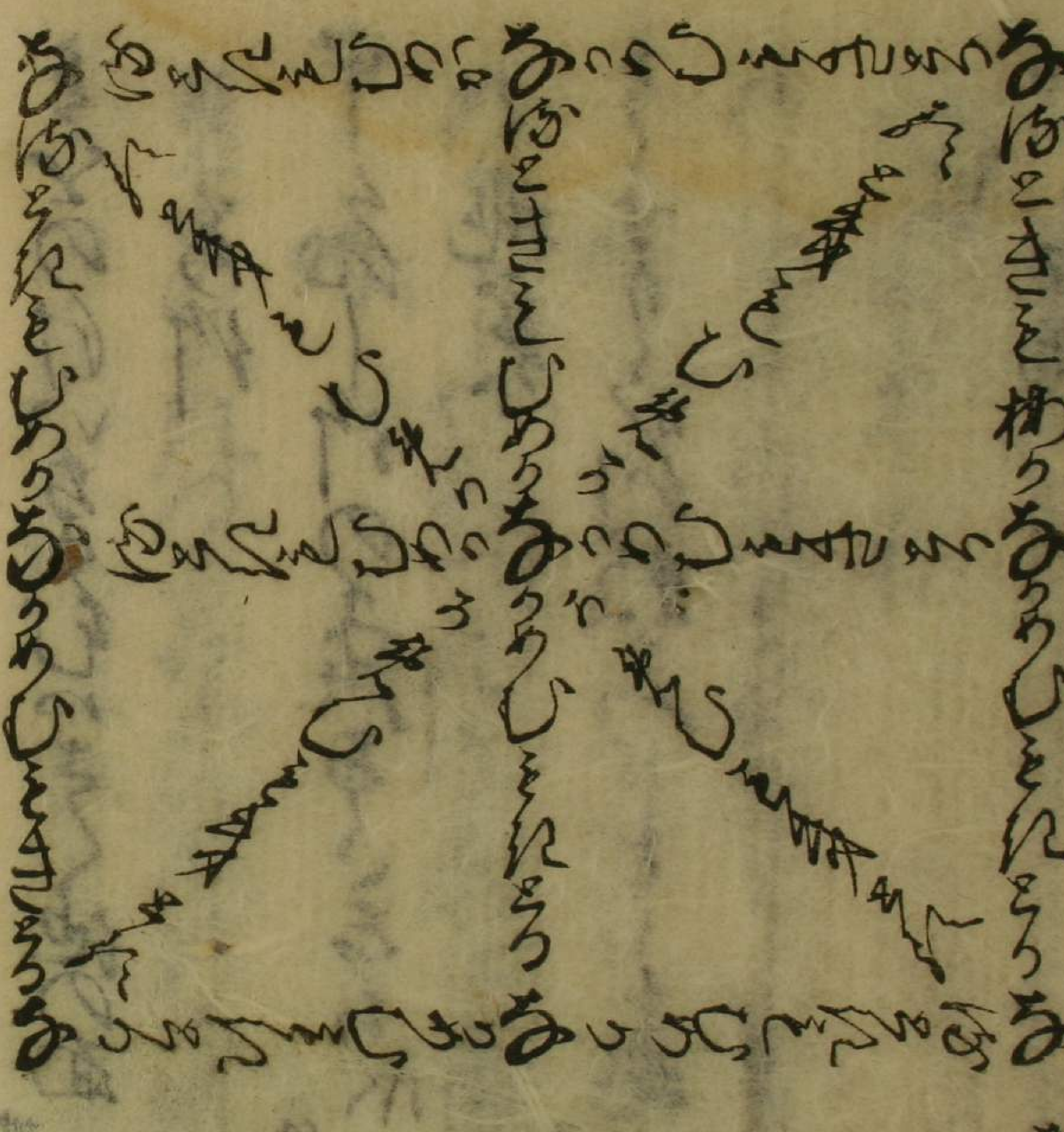
若竹

中ぬけし竹の子比ちさきもち秋
紀州和歌山家住 政成

桃実

きくすりに川数のつつよこもも桃
丹家泉州町者 源氏 宗友

青梅



吉田吉兵衛 清政

よしかんむの実みんは柄ろよ

霞住 元与

小角豆 茄子 千文字てわ句廻よ

森勘兵衛 [illegible]

今朝よさけよ郷さけ清よ今朝 よさけ

多をひきれ屋はむやくすき島

某大坂屋 村儀

蓮

數乃葉ハ志ろ露いろし一筆の数

武事して

なか先んしきころと数葉ハきよか

某泉町某田某 宗庄

端午付一夜酒

今朝の酒のめやわかものも今朝の酒　八木ある先　重之

上下よ都鄙のさゝ人民此一夜酒　摂州富田　廣沢能兼　兼次

清水結

此山や清水の夏かくし山やまし　東京町　重安

水無月

みな月とくとくさゝやくて沖深波　伊勢　東只

雜夏

たくの味曽夜大豆まなきて　後住

梟ねさの出来ぬれハ

中き川うちたつて梟ハ初月歟　勝紙

秋

秋柳

黄なるやわかれきや岸の小川柳

黄なるやまさく橋本岸の玉柳

未地と新なる柳の落葉郡

葉の黄なるやかせるや風に松は葉、　江戸住　林扇

露

水を汲ハ落る露つゝむ色を通　友永

名月

晴るゝやさゝきりたちさゝ夢に月　大坂大森加六　綿綿

さ月川ふりきかさゝ海ろきゝろ名月つき　大坂住　遊成

萩

嵯峨野の萩々や垣ハ野比露

生垣ハむつまじからん萩の垣　尾州野村長三郎　重儀

長門まてハ朝露を萩の花衣　大坂住　滿成

花ハ朝露野や宮城野萩に花　小松前方　僕治

花ね朝露もひらよむそ萩の花　同方　尖成

咲野の色よき葉のなかに咲人のまゝ

中ちくと朝露の花衣比野白ゝる　住吉三町六六　未溪

縄垣ハよくゆい据てよ萩の花　同

のきはゝん萩乃葉のさいむさきの　故　古時

萩の戸のかこひ井もくかとのきハ　水戸岩ヶ崎　長昌

さく時ハよろこふ詠よき紀之草　紀州住　秦又家

縄垣ハのけいよりけの森の花　江戸住　竹升

蘭

なつむ道ハらんと一つしるされん　三原　元釈

なつむら花のそれなハ志らぬ　紀州堺門町　浄沢

芙蓉

かくらふきるのそれなハふようかな三更　紀州住　一入

秋田

よみうしろかみん境の田　宗成

麻

恋しけき恋志けしまつ麻の畠

少人表日麻よみけしかたの色　若狭　貞好

志らし志て麻をふそうし志つきき志て

乱れ志て山や野山風志てゆれの
しの木坂まで　同

延手

うれ木のかきも苣すれの新の麻　東利右　右勝

あけよ世に小田のかきとに鳩は　高瀬　元清之

麦やまつおりかすしと麦やま川　米久禰右衛門　英重

あれの子麻の子あれしあれの子　同

霞とぬれし納戸のよ川ま麻の字　蓮性寺　源長

鴈

淡みこ雁(カン)の新鴨(ソカン)のきてこ之字　大坂　勝徳之

なれ来てかりやうものの激れて　中川右衛門　重徳

枯草花

さくとりやむも繁もなハいと草　備前住　吉久

草もなハ志れ途芳て花咲　周防　孝廉

中れ草もなへて花ハさく野ぞ　米久　芳成

たちこ畑花よ繁よ花ハたちこ畑　時之

咲ぬるや萩らりまきハやむめ草　宗繁

咲ぬるとも花こそえんハ枯て草　米久　吉寿

苅萱

ちやうちんのくるやあらしかけつゝや

くれ竹ハ垣みえけりとをやうら　九条池小路上ル金仏町 紫水 莫一

尾州鳴海住 了案 為門

鴫

鳴かハ声は鴫かや足もとに飛つき

とどれにさし浅のちや飛つ於鴫えとこ　政次

長座ならハ鴫立つもうけさに　越後新潟石材 勝吉

月

狐の火よそに出るも霄ゐ月

月をたたみこと出かに霞つゝあそふ

星月夜すまもちや夜も浜奥津塩

中よきふつあ雲とらく月秋に

ところたちさ霧つた月のさを

名所の月を

長月を清見ん舟そきき奥津に

友のきついさ見んみさい月のりし　因州 孝庸

浜の秋の川ちきりそこ長月照　四条 宅室

よ義月夜てらてやて行くよ月惜　三条坊門亀屋町平尾　竹翁対　重利

池ひろく東日々三池月も見ろ　東久松町八百　一治

をしめきは行と志らすまいぬ月の友　勢州源宗寺　圭可

よ義月夜て枯あかてよき月よ　尾州大山村木　松遠

まやの宮ん坂んのちまんりして　堺浦町　重吉

にまやにさしよい東けりよ月や星

池は一さ川秋すくいかするよ月影　五条東洞院　吉友

星月と書て絵くつ沖流江　尾州長浦　良助陶友

こえのころとろめひろくこ月の裏こ

のめ采わりわれもものわえ

川にんわ川川

こえのころとろめひろくこ月の裏との

わかこにわれかりつわかやとかむ

とかれはにわれかりめさとかわ

こえのころとろめひろくこ月の裏との

川わかめの行とかとかわかり

めのわ川わがの

こえのころとろ文ひろくこ月の裏こ

堺住後本吉基　一糸

名月

世にはあいめてしきみてそめ名月女

日本橋川町 宅室

菊

あきれは野菊のしきの花なれ

しきは葉にも紅をきこハたえて露の　筆

末浮

なかめしハ野菊のしきれちらしかな

同

華をとも打消を絶ぬ人共

散りて

錆をかむなおる菊華しちんかな

伊勢大橋住人 一秀

そとしきうかつゆくきて菊ふるき友

坊新川 玄揺

木實

なつきね松打ちへ栗と乳木に

撫引香坂 杢坚

よへのまゝおやつやおやつ柿のさ

安山水沢良ちつ 清誠

なのさくれ打句 沓冠

なら鶯川なかきされきれなき葉に

黒牟こちつ 霊治

桃の木れなるとは打なれのきて

越後新潟田宅 正德

蔦

あさつきの影を残ハ木丸乃蔦　　播州赤穂新井磨　玄孝

雜秋

あらひ縄車次まてまかひるな　　黒瀬ニア　堂治

野菊廻文意句十句

かくきのたなをそのなが野菊かな
目がくき乃さか目盛り野きくかり目盛りか
なかくきのたなをそのな野菊かな
のさきやうさけのるきやうのうそのを
なかくきのえなをそれなハ野菊かな
のきくさ[illegible]のなれハ[illegible]
なかくきのなをそ乃なハ野菊かな

播住人小西荻花　宗利

冬

霜

さし野色も花のやうなる野への霜

[illegible] 書松

炭

すみ炭焼く小野の方に煙

[illegible] 林儀

鷺

鷺見えぬむかふ鳥さえんぞけの方

中の方の川鳥見つさ鷺野小

[illegible] 武重

見えて村鳥さえん鷺見え流見ん

須の孫の川鷺さそみ見えて

鷺橋外等田霧うちたつさ難波方

[illegible] 一明

[illegible] 後治

[illegible] 重次

水鳥

池のこれ鴨の青鴨の浪荒けい

長寝をとこ鴨羽鴨の女孫のる

ましきれいへ鳥と歌ことをる礼鶴

鷺の水鳥わちんとせし名

ゐ鳥も二つやつすふ鳥も川に
あらふなよ鴨の小鴨のあらふさ

中江乙ヲ　永吉

英重

子鳥も一句と十句なり

とそのきうとつとちよりとうきのもと

とをはたうとつとよそうとうきのそと

とそのきたとつとよそうとたそのそと

とそのきうとつとちよりとたそのそと

一宗

神楽 付神無月

孫負やさすまろらくの孫さやさす　四条堀川町大谷川伝左衛門 伝重

まろはこの来つとそ十月神の留主　七条新町みつや甚兵衛 三四郎 春松

雑発

寒さの三河ひさや寒さ身は寒さ

白ハ雲は子餅くへらちを子は税ひ　長久寺小左衛門 昌緒

中こみかうかまさわつう紙子かな　尾州熱田 毎姫

中あこうつまぶ川水流ぶりハかこあふ　佐野 如柳

よきさとまよ流れてなのこときさとよさ　野田庄兵衛 則重

頭巾来つ寒さや寒さ頭巾さへ　五条扇町 重友

池の水ちんちん凝し凝京　堺 一染

秋寒き河よふけすよ志りし秋寒さ　同

さむさとやたてさえそえ留寒さ　東洞院新町年尾 重則

今朝のひつ花まきをれすほこ寒さ焼　大坂住 一晴

ちりてちりちりちをつけて師走哉　佐野 幾成

舞内之表

永ひる書家なるハ梅ふ日多

素江

慶安弐暦仲秋吉辰日

崑山館道可處士鋟板